

## 被災された視覚障害者支援のこれまでの状況報告と 新たに始まった本格的な視覚障害者の震災支援の取り組み

社会福祉法人日本盲人福祉委員会（日盲委）  
東日本大震災視覚障害者支援対策本部  
事務局長 加藤俊和（9月5日）

### 1. 経過

#### (1) 4月の視覚障害者の調査結果

日盲委の組織を生かして、岩手・宮城・福島3県の視覚障害者協会会員、点字図書館利用者、盲学校同窓会名簿のうち、津波被害の沿岸部の抽出リストを作成し、まずは各団体からの電話確認を行い、4月には連絡の取れなかった方々を訪問して回りました。その結果は次のとおりです。

沿岸部調査対象者数：586名（岩手 201、宮城 273、福島 112）

電話確認数：294名（岩手 47、宮城 174、福島 73）

被災現地確認数：236名（岩手 115、宮城 88、福島 33）

未確認者の数：56名（岩手 39、宮城 11、福島 6）

（うち死亡・不明：7名…岩手 5、宮城 2、福島 0）

訪問した避難所：748箇所（岩手 330、宮城 348、福島 70）

支援していただいたボランティアコーディネーター数：延べ50名

（うち半数は、日本盲導犬協会の仙台や各地のリハ担当職員）

#### (2) 視覚障害者の死亡・行方不明者数の全容について

4月時点での調査対象者は、身障手帳保持者数の10数%です。8割以上の視覚障害者が不明であり、視覚障害者で亡くなられたり行方不明者になっておられる方は、50名以上の可能性があります。各市町村における障害者手帳所持者の安否については判明しつつあるのですが、犠牲者が3900人も石巻市等もあり、まだ全容の発表までにはまだ時間がかかりそうです。

#### (3) 宮城県における視覚障害者の安否確認について

安否確認及び支援のための視覚障害者の把握については、3県の沿岸部の視覚障害者協会会員、点字図書館利用者、盲学校同窓会名簿などだけでは全体の10数%にすぎず、非常に多くの中途で視覚障害者となられた方々の把握のために県や市町村に身体障害者手帳所持者リストの開示を求めてきましたが、個人情報保護による制約のため、一部を除き、実現はしませんでした。

その中で、宮城県での状況の新聞報道もあって、厚労省と宮城県による開示への努力が続けられ、5月には、宮城県で県や市町村の係員の調査に日盲委の支援団体も同行する形で、支援の幅を一定限広げることができました。しかし、全体把握とはなりませんでした。

### 2. 新たな取り組みで、これまでにない画期的な広がり

#### (1) 宮城県から日盲委の資料を是遠因に配布

厚労省、及び宮城県への働きかけによって、宮城県下（仙台市を除く）の沿岸部被災地におけるすべての1、2級手帳所持視覚障害者1100人への日盲委の「支援資料の送付」が6月17日に実現しました。これは、配布資料と返信用はがきを対策本部が印刷して提供し、県からの情報提供として配布していただいたものです。その反響は予想以上に大きく、何らかの支援を要望される方は8月20日現在で届かなかった方を除く方々の4割近い、375人にもなりました。被災後3～5か月になるのに、これだけ多くの支援してほしいとの要望があること自体、いかに多くの視覚障害者に支援の手が及んでいなかったのかがわかります。

これらの人々のほとんどが、これまでも、私たちが把握することができていなかった、家でひっそりと暮らしておられ、声をあげることもできない、中高年で中途視覚障害者になられた人たちでした。

## (2) 最初に始まった宮城県の取り組みの結果

要望の明確な物品については、最も多い要望は「ラジオ」で、7割以上もの方々が要望されています。一般の被災者へのラジオの供給は既に4月までに終わっているのに、最も必要なはずの視覚障害者には、ほとんど行き渡っていなかったという、全く取り残されている、本当に悲惨な状況を象徴するような結果でした。さらに、音声の腕時計・置時計・体温計などは、それぞれ5割以上の方々から要望があり、ルーペや白杖も4人に一人が要望されています。

それどころか、「音声時計って何ですか」という問い合わせの電話がどんどんかかってくるなど、音声の用具があること自体、知らなかったという方が半数もおられることもわかり、日頃の福祉の情報がほとんど届いていない実態も明らかになってきました。

そして、いろいろと記載されていた内容は本当に多岐に及んでいます。震災後、病状が悪化して入退院をされたり、視力が低下した方もかなりおられ、死にたいとの悲痛な声すらありました。仮設住宅になっても移動が困難になって閉じこもたれたり、少しでもましな仮設への優先入居はないのかと嘆かれたり、様々な手続きができずにおられたり、・・・悲惨とも言える状況がいくつも書かれていました。

さらに、岩手県でも、7月26日に沿岸部の1・2級の視覚障害者686名に発送され、8月末日現在で200名を超える方々から要望が寄せられています。仙台市も少し遅れて約400人へ発送、福島県でも検討が始まっています。

これらの方々を訪問しての支援が不可欠になっていますので、9月中旬から再び「視覚障害者の相談支援のできる専門支援員」を全国から募っており、現地を回っていただくことを予定しています。

今回、私たちが把握できていなかった、4月の活動時の3、4倍もの人数の被災地の視覚障害者と連絡がとれたことは、この大震災の支援、そして今後の必要な支援へとつながる、画期的ともいえる成果だと言えます。それだけに、新たに拡がった活動によって、どこまで支援ができるかが問われています。相談支援等に携わっておられるみまさまを中心に、支援にご参加くださることを切望し、物品をはじめ、拡がる支援活動に必要な資金のために、さらなる募金をお願いしていきたいと思えます。

以上のように、新たな支援として、支援のご要望を可能な限り電話で確認するとともに、お送りすることで支援できる物質支援につきましては既に対応を初めています。しかし、お伺いして、心のケアを含む、いろいろなご相談にのったり、日常生活用具や罹災証明、その他の必要な諸手続きの説明や代行をはじめ、訪問しての支援が必要なことは言うまでもありません。

9月19日から10月にかけて、支援のご要望のあった、宮城県・岩手県の視覚障害者を回るための訪問支援者の募集を下記のとおり行います。ご多忙のところ、まことに申し訳ありませんが、関係者のみなさま、職場その他も含めて、ご理解とご調整が可能でしたら、みなさまのご支援をぜひお願いいたします。

### <日盲委の現地訪問活動スタッフボランティアの募集について>

#### \*募集の要項

日時：2011年9月19日～10月29日。活動は、原則として、1週間を単位として、毎週、月曜日の朝9時すぎに仙台訓練センター（仙台駅から約10km）を出発、金曜日の18時頃まで。

場所：出発・帰着は日本盲導犬協会仙台訓練センター（予定）

行き先：岩手県下、宮城県下の被災地（沿岸部）各地

対象者：視覚障害者の相談支援の経験者で、普通車運転免許保持、

トイレは心配ありません。宿舎のない所もあり、寝袋持参を原則とします。（ただし状況により配慮させていただくことがあります。）

日盲委負担経費：（人件費や諸手当は申し訳ありませんが負担できません。）みなさまの出発地と仙台訓練センターとの往復の公共交通機関経費及び前泊、後泊の必要な場合の宿泊費。（一般職員用の常識的な範囲）当然ですが、視覚障害者訪問用の移動経費（レンタカー・ガソリン・高速）、宿泊費は日盲委負担で、領収書のない車中泊等は1泊3000円とします。

\*ご支援のお申し込み・お問い合わせは、日盲委対策本部事務局長・加藤俊和へ。 e-mail : pxb02164@nifty.com 電話 090-3464-1090

できるだけ e-mail で、「氏名、所属、住所、メールアドレス、携帯電話、歩行訓練士等の資格、活動可能な日程、必要な場合の書類内容・送付先等、その他伝達事項」をお伝えください。希望の日が集中しすぎたり、その他の理由で、ご希望に添えない場合もございます。ご了承ください。

「活動可能な日程」（実質活動日）はできるだけ次の中からお選びください。

9月19日(月)9時～23日(金)18時

9月26日(月)9時～30日(金)18時

10月3日(月)9時～7日(金)18時

10月10日(月)9時～14日(金)18時

10月17日(月)9時～21日(金)18時

10月24日(月)9時～28日(金)18時

\*現地訪問の支援内容について

ご支援のご要望のあった視覚障害者の自宅、仮設住宅、親戚などの避難先を、原則2人ずつのペアを組んで回り、本人と面談して、状況をできるだけ把握して、それぞれの方々の必要なことを伺います。もちろん、遠かったりいろいろな都合で、再度訪問することが困難であったり、再訪ができるとしてもかなり後だったりすることも多いと予想されます。そのため、対応については、できる限りその場で、市町村や支援団体との連携で解決するように、可能な限り、手続きをしたり関係機関への連携をとっていただくことが重要になります。

なお、時間のかかる、様々な片付けなどを支援することなどは、今回は無理であり、周辺の支援活動などに結び付けるしかありません。したがって、安全靴が必要な作業などはない、と想定しています。なお、大被害のあった市町村や地区の宿泊施設は今もなく、特に岩手県中・南部や宮城県気仙沼市あたりなどでは、寝袋による車中泊が必要になることも予想されます。トイレは大丈夫です。

(8月半ば時点での宿泊可能なところの状況は、岩手県北部の洋野町や宮古市には若干ありましたが、中・南部の山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、そして宮城県の気仙沼市、女川町、石巻市など、大きい市や町でも被害がひどいところはまず無理です。海岸から相当離れた場所にあったホテルや民宿で利用可能なところごくまれにあった、という状況です。)

以上です。大変ご多忙のところとは存じますが、ぜひご検討いただき、可能なかぎりご協力いただけましたら幸いに存じます。どうぞよろしく願いいたします。

-----  
支援コーディネーターの申し込み・お問い合わせ（できるだけメールでお願いいたします。）

→社会福祉法人日本盲人福祉委員会（日盲委）東日本大震災視覚障害者支援対策本部事務局長  
加藤俊和 e-mail: pxb02164@nifty.com (電話 090-3464-1090)

募金のお願い・お問い合わせ→社会福祉法人日本盲人福祉委員会 事務所：〒169-0051 東京都  
新宿区西早稲田2-18-2 電話 03-5291-7885 (月一金) Fax: 03-5291-7886

e-mail: welblind@nifty.com HP <http://homepage2.nifty.com/welblind/>  
-----